

CASBEE神戸ver.3

■ 使用評価マニュアル: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築 (新築) 2016年版 ■ 使用評価ソフト: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	神戸港運会館 新築工事	階数	地上3F
建設地	神戸市灘区摩耶埠頭1-1の一部	構造	S造
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	60 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,650 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場、	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年3月 予定	評価の実施日	2024年5月9日
敷地面積	1,728 m ²	作成者	TSUCHIYA株式会社 渡辺陵
建築面積	943 m ²	確認日	
延床面積	2,795 m ²	確認者	

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE = 1.0 ★★★★★ S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★ 	標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+ このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質 Qのスコア= 2.6		
Q1 室内環境 Q1のスコア= 2.8 	Q2 サービス性能 Q2のスコア= 2.8 	Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.1
LR 環境負荷低減性 LRのスコア= 3.4		
LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.5 	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.4 	LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.1

3 CASBEE神戸の重要項目		
バリアフリー計画 Q-2/1.1.3 バリアフリー計画 1.0	建築物の耐震性等 Q-2/2.1 耐震・免震・制震・制振 3.0 Q-2/2.4 信頼性 3.0	まちなみ・景観への配慮 Q-3/2. まちなみ・景観への配慮 2.0
配慮の概要 0	配慮の概要 0	配慮の概要 0
その他の配慮事項 0		

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される■ LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照された

CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築(新)
神戸港運会館 新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD_

スコアシート 実施設計段階						
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						2.6
Q1 室内環境			0.37		-	2.8
1 音環境		2.1	0.15	-	-	2.1
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.40	-	-	
1.2 遮音		1.8	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能		1.0	0.60	-	-	
2 界壁遮音性能		3.0	0.40	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	
1.3 吸音		1.0	0.20	-	-	2.0
2 温熱環境		2.0	0.35	-	-	
2.1 室温制御		3.0	0.50	-	-	
1 室温		3.0	0.38	-	-	
2 外皮性能		3.0	0.25	-	-	
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御		1.0	0.20	-	-	3.0
2.3 空調方式		1.0	0.30	-	-	
3 光・視環境		3.0	0.25	-	-	
3.1 昼光利用		3.0	0.30	-	-	
1 昼光率		3.0	0.60	-	-	
2 方位別開口		-	-	-	-	
3 昼光利用設備		3.0	0.40	-	-	4.3
3.2 グレア対策		3.0	0.30	-	-	
1 昼光制御		3.0	1.00	-	-	
3.3 照度		3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御		3.0	0.25	-	-	
4 空気質環境		4.3	0.25	-	-	
4.1 発生源対策		5.0	0.50	-	-	2.8
1 化学汚染物質	規制対象外とし、VOC放散量が極めて少ない材を採用	5.0	1.00	-	-	
4.2 換気		4.0	0.30	-	-	
1 換気量	基準の1.4倍以上の換気量	5.0	0.33	-	-	
2 自然換気性能	居室床面積の1/30以上の自然換気有効開口を確保	4.0	0.33	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33	-	-	
4.3 運用管理		3.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視		3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御		3.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	
1 機能性		2.4	0.40	-	-	2.4
1.1 機能性・使いやすさ		1.6	0.40	-	-	3.0
1 広さ・収納性		3.0	0.33	-	-	
2 高度情報通信設備対応		1.0	0.33	-	-	
3 バリアフリー計画		1.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性		3.0	0.30	-	-	
1 広さ感・景観		3.0	0.33	-	-	
2 リフレッシュスペース	執務スペースの1%以上のリフレッシュスペースを確保し自販機設置あり	5.0	0.33	-	-	
3 内装計画		1.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理		3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-	3.0
2 耐用性・信頼性		3.0	0.30	-	-	
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.2	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	主要な用途上位3種のうち2種以上にB以上使用、Eは不使用	5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		3.0	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
3 電気設備		3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性		3.2	0.30	-	-	3.2
3.1 空間のゆとり		3.4	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	3.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり		3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性		3.4	0.40	-	-	ケーブルラック配線により仕上材を痛めることなく更新・修繕可能 ケーブルラック配線により仕上材を痛めることなく更新・修繕可能
1	空調配管の更新性	3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)		-	0.33	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出		2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮		2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー		-	0.40	-	-	3.5
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI _m =0.86	4.4	0.20	-	4.4
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEI _m] = 0.74	3.6	0.50	-	3.6
4 効率的運用			3.0	0.20	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	
集合住宅の評価			-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	
LR2 資源・マテリアル		-	0.30	-	-	3.4
1 水資源保護			3.4	0.20	-	3.4
1.1 節水		省水型便器、自動水栓、節水コマの採用	4.0	0.40	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.5	0.60	-	3.5
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	断熱材、ビニル床、碎石
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			5.0	0.20	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		解体時の分別が容易な工法を採用	4.0	0.20	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	
1	消火剤		-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0、GWP=0	4.0	0.50	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	
LR3 敷地外環境		-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮		LCCO2排出率82%	3.7	0.33	-	3.7
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	3.0
2.1 大気汚染防止		燃焼機器の設置がなく大気汚染物質を全く発生しない	5.0	0.25	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.2	0.25	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	駐輪駐車場の設置、複数出入口の計画により渋滞緩和に配慮
3	交通負荷抑制		4.0	0.25	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	
3 周辺環境への配慮			2.5	0.33	-	2.5
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	
2	振動		-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			1.6	0.40	-	
1	風害の抑制		1.0	0.70	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	光害チェックリストの一部を満たす、広告物照明の設置はない
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策		4.0	0.70	-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	